

## 利活用希望調査 第2回意見交換会 議事録要旨

日時 平成30年9月25日(火)  
午後7時00分から9時00分まで  
場所 市役所南庁舎2階 第5会議室

出席団体：NPO 法人ファミリーステーション Rin、赤ちゃんサークル、  
自然派子育てサークル とこてく、惣助ファーム、株式会社 ideai、  
日進 f b 交流会、いきいき塾 NPO 絆、日進児童合唱団、  
場リスタ Next、

欠席団体：NPO 法人日進野菜塾、ワズパス、自然工房、雑貨屋 Knit.、にっ  
しん犬友の会、にっしんライトミュージック研究会、にっしん観光  
まちづくり協会、愛知保護区保護司会（日進部会）

（事務局）都市計画課基幹施設整備室：加藤室長、高柳室長補佐、  
清水係長、坂井主事

建設経済部：伊藤支援員

### 1 議 題

- (1) 設計素案に対する意見交換
  - (ア) 道の駅設計（素案）について
  - (イ) 道の駅のデザイン検討について
- (2) 要望内容（道の駅全体）のまとめ

（事務局）

- 平成30年8月30日に開催した第1回意見交換会では、個別ヒアリングの内容をできるかぎり反映させた「たたき案」を基に、要望内容、屋外広場と駐車場との安全対策、道の駅のデザイン検討など、さまざまな意見をいただいた。基本的な設計の方向性は、概ね事務局案どおりでよいとのまとめがなされた。本日は、第1回にいただいた意見、事務局で再検討したものなどを反映した設計（素案）を作成したので、この案に基づいて意見交換を行いたい。
- 特に意見交換したい事項は、①「道の駅設計（素案）について」と②「道の駅のデザインに関する意見」である。
- 今回の意見交換会で、設計（素案）に対して大きな変更点がなければ、利活用希望調査としての「利活用希望調査に基づく道の駅の要望内容（道の駅全体）」として取りまとめていきたいと考えている。
- 今後は、この設計（素案）を基に、道路管理者等の関係機関との調整、管理、

運営、総合的な視点からの設計（案）の検討を進めていく予定である。

- なお、第 1 回の意見交換会を欠席された団体にも意見の聞き取りを行い、今回の設計（素案）を作成している。
- 本日の意見交換会は、全体で意見交換を行うので会議形式で行う。

## <主な質問・意見等>

### (1) 設計素案に対する意見交換

#### (ア) 道の駅設計（素案）について

- 第 1 回意見交換会のたたき案から何点か変更点があるが、設計（素案）について何か質問・意見等はあるか。
- キッチンカーの配置についてだが、前回の意見が「固定イメージを避けてもらいたい」との要望になっているが、少し趣旨が異なる部分がある。前回のたたき案では、屋外広場の東側にキッチンカーの配置イメージとなっていたので、広場周辺に電源があり、どこでも出店できるようなイメージにしたほうがよいという趣旨だった。今の素案だとイメージが図示されていないので、逆に指定管理者が「屋外広場ではキッチンカー等の出店は認めない」と考えて、出店できないケースもありうると思われる。屋外広場の電源がある部分では飲食や物販の販売ができる想定について、注釈でもよいので入れてもらいたい。
  - 電源の利用に関しては指定管理者の意向によるが、広場東側は植栽内に立ち上げ型のコンセントポールを 3 箇所、広場西側は庇の支柱に 3 箇所を設置する予定としており、広場全体に配置している。設置数については、判断が難しいところがあるが、10 箇所 20 箇所と数多く設置すると、今度は電気容量や配線の問題も出てくる。今後の維持管理等を考慮すると、延長コードで対応するなど運用方法で対応したいと考えている（事務局）。
  - 設計段階では、イベント利用等による活用を想定しており、広場周辺に配置している。広場南側にも電源が必要か（事務局）。
  - できれば設置してほしい。
  - 電源は、雨による浸水の兼ね合いから地中埋込式が難しいが、一度検討する（事務局）。
  - キッチンカーの配置イメージがないために、指定管理者がキッチンカー等の屋外広場での販売の想定ができないのは困る。図面の欄外でもいいので、「電源周辺ではキッチンカーを想定している」といったことを入れてもらいたい。
  - そのあたりの表現について、何らかの工夫を検討する（事務局）。
- 自動二輪の駐車場についてだが、道の駅だとツーリングの利用客が多いという話をよく聞く。利用の話を聞くと、大型バイクの利用なども多い。大型のバイクを想定しているのか、また、身障者用駐車ますの近くに、大型バイクの駐輪場があるのは危ないのではないかと思う。

- 大型バイクの駐車については、普通自動車の駐車場を利用すると想定している。想像されているような大型バイクではなく、比較的排気量の小さいバイクの利用を想定している（事務局）。
- 敷地内は、この場所がすぐ分かるような案内は行っていくのか。動線的にはぐるっと敷地内を回るような配置になっており、位置が分かるのかなと思うので、駐輪場の案内をしっかりとの方がよいと思う。
- 特に南側から進入してくる自動二輪に対しては必要と思われる。現時点では施設内のサイン計画の具体的な検討を進めていないが、工夫が必要な部分だと思われる。今後、参考として検討させていただく（事務局）。
- バスや自動車は、どこから出入りするのか。
  - 県道の北進方向は敷地東側に計画している付加車線から、県道南進方向の車両は日進消防南の交差点から市道に入り、敷地南側からの出入りを計画している（事務局）。
  - くるりんばすは、南側から入るのか。
  - くるりんばすは、南側から進入し、南東部にあるバス停部分に止まる予定である。敷地内は走行しないような配置になっている（事務局）。
  - 県道から入ってくることはないのか。
  - バスの路線ルートは、どのようになるのか未定だが、基本的には南側市道から進入する予定である（事務局）。
- 大型車の駐車場については、どのように駐車するのか。
  - 県道から直接出入りする北側の乗入口の場合、一旦敷地南側まで走行する。駐車方法については後退駐車、前進発進となる。車路については、利用者の安全性も考慮して、地域振興施設から離れた位置で検討している（事務局）。
- 前回の意見交換会の際に、広場の周囲全体にシェルターを設置することは、防災ヘリポートの設置基準から難しいという話は聞いた。できれば広場東側だけでもシェルターを設置することはできないか。夏の暑いときは日除けになるし、土日曜日のイベント時には物販等の販売に利用することができる。施設内での販売では、外側から見たときに分かりづらい。何かイベントが開催されていることが、分かるような仕組みがあるとよい。駐車場から施設までつながっていると良いと思うがどうか。
  - 広場周辺の屋根は、防災ヘリポートの離着陸帯の設置基準の関係で難しい（事務局）。
  - 広場東側が難しいなら、北側でも良い。
  - シェルターを設置すると、屋根を支える柱が別途必要となる。そうすると、駐車場等を含めた敷地全体の連続性が途切れてしまう。イベント開催等で広く利用するため、フラットにして広く連続性を持たせたい意図から設計されているし、そういった要望もあるので難しいと思う。
  - 雨の日に傘を持って歩くというのは少々わずらわしい。施設としても、傘置場を置くよりも、ビニール袋に入れて持って歩くのが一般的だと思われる。

るが、屋根があれば、小雨程度であれば傘を持たずに歩いていけると、そういうわずらわしさが緩和されると思う。また、イベントで利用させてもらえるとありがたいと思う。

→南側と東側にシェルターを設置することについては、防災ヘリポートの離着陸帯の設置基準の関係で難しい。北側については、ご意見として伺い、防災ヘリポートの離着陸帯の設置基準の関係を踏まえて、一度検討させていただく（事務局）。

→使い勝手をいろいろ考えていけば、いろいろな人が利用すると思う。

・その他、何か意見等はあるか（事務局）。

→当団体は、要望内容を反映していただいたのでありがたい。

・子育て支援施設（屋内）に設置されているボルダリングウォールは、前回の図面には無かったが、どのような経緯で図面に示されたか。

→屋内で子どもが体を動かして遊ばせたいという要望が元々あった。その要望を元に、子どもが積極的に体を動かせるもので、近年、人気があることからボルダリングウォールを設定してみた。壁面を利用することで、少ないスペースを効率的に活用することができることもメリットと考えた。事務局からの提案であり、皆さんのご意見を伺いたい（事務局）。

→他に案がある訳ではないが、市スポーツセンターには正式なボルダリングウォールと子ども部屋用のものもある。せっかくなので「道の駅にはこういったものがある」と言える、別の設備を置いた方がよいかと思う。

→ボルダリングウォールは、借りて利用する施設になるのか。

→子育て支援施設は、誰でも利用できるものと考えている（事務局）。

→子育て支援施設を管理する人間が誰かいて、子育て世代の利用者が訪れたら、その利用を見守っているイメージか。

→そういったイメージである（事務局）。

・ボルダリングウォールとなると、対象年齢が高い施設となると思われるが。

→スポーツセンターにあるものは、小さい子どもも利用できる施設である。

→未就学児でも、つかまって遊べる感じのものである。

・小学校低学年程度を対象とした施設ということか。登るよりも小さな子どもがつかまって遊ぶようなイメージならと思ったが、そうになると、それをやりたい子どもたちで溢れかえってしまうと対処できるか心配であるが、趣旨を確認したい。

→スポーツセンターにもあるので、道の駅に集中することはないのではないかと思う。

→スポーツセンターのものは、あまり市民に知られていない。一方、道の駅は誰でも利用できる施設なので、ここにボルダリングがあると周知され、一気に人が集まる可能性がある。

→体感的なことだが、子どもと過ごしている中で、ボルダリングがあるからといって人が集まってくることはないと思われる。

→道の駅とスポーツセンターでは公共性が異なる。他の皆さんが気にならな

いのであれば問題ないが、小さい子どもと一緒に利用する施設としては危ないのではないか。

→スポーツセンターでも、大きな子どもが登っている中で、小さな子どもが下を歩いていることがあるので、誰でも利用できる条件だと危ないと思う。

→下に安全マットを敷くので、案外スペースが必要となる。

→ボルタリングウォールは事務局からの提案であったが、皆さんの中で「こういった施設が良い」といったご意見をいただけるとありがたい。施設の条件としては、小学校低学年程度を対象としたスペースであることである。乳幼児等と混在するスペースではない（事務局）。

→そういったスペースであることを了承した。

- 小学校低学年を対象とするなら、映画上映などで対応してはどうか。

→体を思い切り動かしたいというのが元々の要望であった。それに対応するために事務局が検討してくれたものが、今回の提案である。

- これという提案がないので申し訳ないが、乳幼児室から就学児童室まで、どの程度の延長があるのか。要するに、ボルタリングウォールで遊んでいても気にならない程度の距離があるのなら問題ないと思うが、どのくらいの距離感が教えてほしい。

→おおよその幅としては、約 15m程度といったところである。また、施設としては就学児童室と未就学児童室の間には、移動間仕切りがあるので、完全に仕切ることは可能である。（事務局）。

→ボルタリングウォールのある空間と絵本を読みたい親子の空間の両方を管理していけるのか、管理の視点から少し心配である。

→小学生が利用しに来たら、仕切ってしまうような運用が必要ではないか。

→第 1 回意見交換会でいただいた就学児童室の有効利用についての意見を検討し、就学児童室と未就学児童室の間は移動間仕切で設定している（事務局）。

→乳幼児と未就園児と就学児童を育てているが、実際に仕切られると困ると思う。しかし、仕切りがないと危ない面もあるので難しい。

→子どもが大勢利用している場合、管理者が仕切りをすることが困難なケースはありえる。

- 福祉会館の建設時でも、せっかく意見を反映して、室内で自由に遊べる施設を整備しても、残念ながら管理ができない状況となり、利用できなくなったことが起きている。意見を反映したとしても管理を想定した設計をしないと、同様のことが起こる可能性がある。

→安全対策を含めた運用を想定しながら、改めて施設内容を考えていきたい（事務局）。

→もう少しスペースがあれば、問題ないと思う。

→ゾーニングを分けなければ、大きさ的には問題ないが、子どもたちの利用の安全性を考えると分けざるを得ないと思う。

- 思ったより小さい規模というイメージである。
- 子育て支援施設（屋内）は、個別ヒアリングでお聞きした意見を反映し、設計させていただいている（事務局）。
- 子育て支援センターでも、5～6歳児が元気に遊び回るくらいの活動で狭い感じである。
- 私が思う就学児童用のスペースは、相野山福社会館にある体育館のようなスペースである。あれくらいあってようやく体が動かせると思う。ボルタリングがどうのこうのよりも、施設自体が狭いと思う。
- 就学児童室については、使い方や運用、安全対策を含めて皆さんの意見を参考に、今後も施設内容を検討していく（事務局）。
- 公園の遊具については、子どもが体を動かして遊べるような複合遊具を置いてもらいたい。本当は木登りできる樹木が欲しいが、それは管理上難しいとのことなので、遊具は置いてもらいたい。
  - 登れるような樹木は管理上の問題もあるので難しい（事務局）。
- 図面上にあるシェルターとは、どのようなものなのか。
  - シェルターとは、屋根の付いた通路をイメージしていただければと思う（事務局）。
  - 身障者用駐車場などは屋根があるのか。
  - 身体障害者用駐車スペースやバス停から、利用者が雨に濡れずに施設内に進入できるように設置されている（事務局）。
- 屋外には、例えば「〇〇フェア開催中」といった広告等を出すスペース等はあるのか。
  - 現時点では、まだサイン計画は未定であるので、位置の想定はしていない。そういったお知らせも必要だとは思っているので、今後検討していく（事務局）。
- 道の駅でないといけない必要性等を考えていく部分もあるが、市民がメインに使う施設となっていくはずであり、当団体としては交流スペースがあれば良いので、要望内容としては問題ない。
- 全体的な設計（素案）への意見としては、調理室と多目的施設の間は壁ではなく、パーティション等で全体が連続空間となり利用できると、料理をしながら講義を行うこともできるようになるのではないかと。難しいとは思いますが、調理室が多目的室から見えると面白いではないかと思う。
  - 第1回の意見交換会で聞いたが、法令の基準が何かで全体の連続性は難しいはずである。
  - 建築基準法や消防法における防火基準等があるので、それを確認しながらの検討になる（事務局）。
  - ガラス等で透過しているだけでも良いと思うので、一度検討してもらえたらと思う。
- DMO施設と情報発信施設に、それぞれパンフレットを設置する場所があるが、別々のものになるのか。こうしたスペースは、道の駅では一体になって

いるイメージがあり、観光協会が道の駅と一緒に管理しているイメージがある。何か分けている理由はあるのか。

- 大きな違いとしては、DMOは法人が活動する場所であり、24時間開放されている場所ではない。一方、道の駅の情報発信施設は、24時間誰もが利用することができる必要がある。そのため、設計の段階ではゾーニングとしては分けざるを得ない（事務局）。

→DMOの方は事務所として利用されるので、一般の人には関係ない施設となるのか。その辺りは、私たちでは分からない部分である。情報発信施設に置くパンフレットは、DMOで設置するパンフレットとそんなに差はないと思う。利用者は、日進市の情報が欲しいので、もう少し一体感があると良いと思う。

→現段階では、DMOも設立に向けて準備段階であり、内容も未定である。なので、DMOの方のパンフレットスペースの表示は紛らわしいので削除する（事務局）。

- 情報発信施設の管理について、DMOは関わらないのか。
- 関わってもよいと考えているが、現段階では予定していない（事務局）。

→その理由は何か。

→施設の管理者が異なるためである（事務局）。

→日進市としてはそれで良いのかと思う。管理が異なるのは理解しているし、だから施設が区分されているのも理解している。ただ、一般の利用者から見たら同じ施設なので、より日進市の情報を発信できるようにしないとダメだ。

→まだ決まっていないことも多い中で、できるだけ一体感をもたせるため、近い場所に寄せてある（事務局）。

- 実際に、いろいろな道の駅を見て回っているが、観光施設のところには人がいて話ができる方が良い。誰かが常駐していないと利用も進まないなので、せっかくDMOがあるならと思う。その部分は、結構、道の駅の肝の部分だと思う。

→事務局としては、DMOに期待しているし、できれば管理を行ってもらいたいと思っている（事務局）。

- 前回と図面を比べると、情報発信施設内に机などの家具が配置されているが、このようなレイアウトか。

→机や棚の配置イメージは、施設の大きさを捉えやすくするためのイメージとして図示したもので、決定のものではない（事務局）。

- 農産物はどのように販売していくのか。誰がどのように管理していくのか等は、気になるところである。

→売り方自体は指定管理者の意向もあるが、図面の棚等の配置は、あくまで施設イメージとして図示したものである。何を、どのように取り扱っていくのかについては、今後の検討事項となる（事務局）。

→一般の道の駅では、地域で採れる農作物や特産品の販売がメインと思う

が、これまでの話を聞くかぎり、それらとはコンセプトが異なる印象がある。

→従来の道の駅とは趣きは異なる部分があるが、市民の皆さんに利用してもらえたい施設にしたいと思っている。物販施設については、日進市の道の駅をPRするために戦略的に考えていく必要があると思う（事務局）。

→大型車の駐車まずは、トラックを想定しているのか。

→県道の休憩施設であるので、通行する大型車を想定している。台数については、通過交通量から設計要領に基づき算定している（事務局）。

- 高速道路のサービスエリアだと、バス利用者が迷わないよう、バスの前面が見えるように駐車するようになっているが、日進市の道の駅は道路側を向いている。

→限られた敷地の中で、車両の軌跡や安全性、駐車まずの構造等の技術的な部分を考慮して、この配置となっている（事務局）。

- 子育て支援施設のイメージとしては、子どもを遊ばせる場所として想定しているのか。それとも保護者が子育て相談等の利用に来て、その間に子どもを遊ばせて置くようなイメージをしているのか。個人的には、道の駅の他の施設を利用している間、子どもを見守ってもらえるとありがたいと思う。

→基本的には、子どもは保護者が見守っていただきたいと考えている。道の駅は誰でも利用できる施設であるので、子育て支援施設に子どもを置いて買い物する等は想定しにくい（事務局）。

→そうすると、子育て支援施設は、子どもをつれて遊びに来るところにイメージが近いということか。

→指定管理者によっては、何人か常駐させて管理運営することも想定される。どんな指定管理者が入ってくるかによっても異なるので、現段階ではお答えしがたい部分である（事務局）。

- 子育て支援にも、いくつかの定義があると思う。例えば、母親の育児を支援する、保護者の子育ての悩みを解消する、炊事等の家事支援サービス、遊び場の提供、親子の学びの提供、いろいろあると思うが、目的があれもこれもだと難しいと思う。例えば、育児中の母親の気持ちが楽になりながら買い物もできるような場所になるとよいと思うし、そういったことが分かりやすいとよいと思う。

→市の施設として、何をしたいか核がないと決まっていけないと思う。

→どのような方向性かは、基本計画の段階で整理している。子育て支援をテーマとしていく段階で、現状、課題、分かっているもなかなか解消できない問題があり、それを市の関係部署と調整しながら、ぜひ道の駅で取り入れていきたいというものを考え決めている。主に4つの事項が記載されている。道の駅の良いところは、広い駐車場とトイレがあることである。何か活動を行おうとした場合に、駐車場とトイレがあることはメリットになる。また、市の出張相談の場として活用したり、子育て支援に関する情報

発信の場として市の PR をしたり、そういったものを目指しながら進めてきた（事務局）。

- 子育て支援がテーマだとすると、農産物の販売は行わないのか。道の駅として重要ではないのか。

→日進市の道の駅のテーマの一つとして、農業振興も含めている。日進市の道の駅は、都市近郊型であり、従来の道の駅とは少し異なるものと考えており、子育て支援もテーマに含めている。日進市の道の駅は 4 つのテーマを持っており、子育て支援、防災、農業振興などの軸を持っている。

例えば、隣接する田園フロンティアパーク構想（基本計画）と相乗効果を図っていききたい等、そういった農業振興についてもしっかり方向性を持っている（事務局）。

→地元的新鲜な野菜が手に入るなど、そういったことが道の駅の良いところだと思うが。

→地元産の農産物が手に入ることは、道の駅の基本的なベースにあると考えている。「日進市の道の駅の売りは何か」と聞かれると、すぐに羅列することは難しいが、そういった部分も商工会や JA あいち尾東とも調整しながら、PR をしていく場にもなっていくものと考えている（事務局）。

→指定管理者としても日進市のものを売りたいと思うし、そういったものを利用して加工した商品を開発・販売してもらいたいと考えている。なので、農産物の販売は基本ベースであると考えている（事務局）。

- 子育て支援施設に力を入れて、物販にはあまり力を入れていないように感じるが。

→売場面積としては、約 400 m<sup>2</sup>ある。他の道の駅と比べても、しっかりと面積を確保している（事務局）。

- 子育て支援施設は、プライムツリー赤池よりも魅力がないと利用されないのではないかと思う。少しお金を出せば遊べる施設があり、買い物もできる。あれに勝てる魅力がないと成功しないと思う。

→道の駅を計画している（主）瀬戸大府東海線沿いを見てもらえると分かるが、多くの飲食店が立ち並んでいるが潰れておらず、繁盛している店舗が多い。他の指定管理を行っている事業者から話を聞くと、日進市の道の駅は立地として、とても魅力的だと仰っている。本当のところは不明だが、従来ある道の駅は観光シーズンの時期しか利用者が来ないが、日進市は都市近郊で人口も増加しており、非常に魅力的であると聞いている。その中で、子育て支援施設についても、今の時勢ではありだとも聞いている。時代の変化の中で、日進市は最先端にいるのではないかと、そう考えている（事務局）。

→この路線を通るのであれば、そのままモリコロパークに向かうのではないかと。

→そうならないよう盛り上げていきたい（事務局）。

→就学児だけでなく、中学生、高校生、大学生、縦のつながりも考え、上の

世代の子どもたちが自然と集まるような施設にできると良いと思う。例えば、多目的施設を市内大学のサークルに利用してもらって、講座やイベントを開いてもらうなども考えたらどうか。施設全体を使って子育て支援のような、コンセプトを持った方が独自性が出るのではないかと思う。

- 設計の意見とは違うが、一点だけ気になっていることがある。私が利活用希望調査に参加するにあたり、道の駅整備を反対するよう言ってくる人たちがいる。そういう人たちは決まって、道の駅の利活用の意見もなく、関心もなく、ただただ理由もなく反対なだけである。

ただ、そういう流れを薄めていくためには、やはり関わる市民を増やしていく必要がある。施設の利活用も関わりだが、運営にも関わることも大切ではないかと思う。新しい施設の構想であるので、管理運営にボランティアが参加できるような、管理運営計画を考えていくことはできないだろうか。いろいろなボランティアやNPOが運営に関わっていくことができる仕組みを構築できれば、施設管理費用も抑えられるのではないかと思う。建物ができる前に、ある程度組織を作っておかないといけないので、1年2年掛けて研究していく必要性があるのではないかと思う。そうなれば、反対の人にも「日進の道の駅は他と違う」と言っていけるのではないかと思う。

→日進市は日進市の歴史があるかもしれないが、全国を見れば、もっとすごい技術や工夫を持った事業者がいて、上手くいっているところもある。道の駅は事業者の運営の工夫次第で、盛り上がっているケースが見られる。

そうした世の中で上手く運営している、新しい風を取り入れることで、地域とも上手く連携していけるのではないかと思っている（事務局）。

→事務局の皆さんの本気度は、良く伝わってきているので、道の駅に期待している。

#### (イ) 道の駅のデザイン検討について

- 前回の意見交換会での意見を基に、少しいメージを膨らませてみたが、何か意見等はあるか。  
→特に意見なし。
- 今後、指定管理者は設計に関わることはないのか。  
→その予定はない（事務局）。
- 先ほどの意見にあったが、多くの市民が関わっていくことは大切だと思う。もう少し多くの市民が関わることで、広く市民が関わって作り上げている施設だといえるのではないかと思う。図面に載らなくても、多くの意見を反映しましたといえるし、反対派の人たちにも言えるのではないか。  
→今回の17団体だけでも、さまざまな意見があった。それぞれ専門的に活動している皆さんから意見をいただいたので、それは基本にしていきたいと考えている。また、事業者の利益のために施設を作るのかといった意見もあるが、基本計画の段階にて公設民営で行う方針を示している。そのため

に、こうして意見を伺いながら進めている（事務局）。

→事業費のこともよく聞かれるが、事業費は測量等を行った後、設計を行って算出されるものである。そうしたことを含め、これからもしっかりとPRしていきたいと考えている（事務局）。

- 自分の団体内でも、道の駅整備について知らない人もいる。いつ周知するのか、いつ市広報に掲載してくのか。

→市ホームページにも掲載しているほか、広報紙にも今年4月号に道の駅基本計画について掲載している（事務局）。

→関心のない人は広報紙を見ないのかもしれない。何らかの方法は考えてはどうか。

→PRや周知方法は、何らか検討していく（事務局）。

## （2）要望内容（道の駅全体）のまとめ

- 本日の意見交換会で、利活用希望調査としての「利活用希望調査に基づく道の駅の要望内容（道の駅全体）」を取りまとめたことでよろしいか。

→了解した。

### <まとめ>

- ①自動二輪用の駐車場については、場所が分かりにくいので、敷地内の安全性も考え、駐車場の位置が分かるようなサイン計画を検討していく。
- ②屋外広場周辺のシェルターについては、広場東側は基本計画の策定段階で主要地方道瀬戸大府東海線から施設が見えやすい配置を考慮することとしてきたため、その方針を優先し対応しない。広場北側のシェルターについては、参考意見として持ち帰って検討する。
- ③キッチンカーの利用については、広場南側にもコンセントポールの設置について検討する。
- ④子育て支援施設（屋内）の就学児童室に設定したボルタリングウォールについては、使い方や運用、安全対策を含めて皆さんの意見を参考に事務局で検討する。
- ⑤サイン計画については、施設銘盤以外の交通やPR看板に関して、詳細設計で検討するため、参考意見として伺っておく。
- ⑥道の駅のデザイン検討については、事務局提案どおりで良い。
- ⑦本日、利活用希望調査としての「利活用希望調査に基づく道の駅の要望内容（道の駅全体）」を取りまとめた（欠席者意見は別途聞き取りを行う）。今後は、事務局にて、道路管理者等の関係機関との調整、管理、運営、総合的な視点からの設計（案）の検討を進めていく。
- ⑧意見交換会を含めた利活用希望調査の内容については、要旨等をまとさせていただいて、市ホームページ等で公開していきたいと考えている。その際は、意見を述べた団体名が分からないような配慮は行っていく。

